

## ・凡例

- ・振り仮名は「」、ほぼ判読不能であるが推測したものは「」、判読不能のものは□や□…:…を使用した。
- ・踊り字(ゝ、ゞ、く、ぐ)はママ入力した。
- ・合字(ろ等)はひらいて入力した。
- ・なるべく常用漢字を用いた。
- ・テキストの前の( )内に丁数を入力した。
- ・翻刻の前に簡単な書誌情報を記した。
- ・錯簡が認められるものは、その柱書の丁数を優先した。
- ・草双紙はその特性上、改行を/で入力せず、ひとまとまりの文章が見開き一丁に渉る場合も読みやすいよう入力した。
- ・双行は《》内に入力した。
- ・張り紙や見せ消ちなどは【】内に入力した。

国会図書館蔵『果報寝待物草太郎月』

- ・地の文は(地)、台詞はそれぞれ人物名を( )内に入力し、頭につけた。

酒田市立光丘文庫蔵『物種真考記』 弘前市立弘前図書館蔵『物種太郎』

- ・句読点は振らず、原文のまま載せた。そのため原文の改行をテキストにも反映させた。

\*翻刻にあたり、快く許可して下さい

酒田市立図書館光丘文庫

東北大学付属図書館狩野文庫

弘前市立弘前図書館

東京都立図書館加賀文庫

に厚く御礼申し上げます。